

あしかじんじゃほんでん
91. 足鹿神社本殿

■ 指定日

昭和57年10月9日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市八代

■ 所有者

足鹿神社



■ 内容

式内社足鹿神社の社殿で、現在は覆屋の中にある。三間社流造りで、こけら葺の屋根正面は豪華な唐破風である。近世中期の地方社殿としては、大規模である。正面と両側面には高欄付縁をめぐらせ、脇障子を立てる。正面には昇高欄付木階を設け、身舎前面には向拝がつく。向背は面取り角柱で、柱上には出三ツ斗を置く。また、組物の中間には墓股を入れる。両端の角柱は、海老虹梁でつなぎ、中柱の上には手挟みを付ける。

この本殿は、貞享年間(1684～88)の建築時そのままの姿であり、海老虹梁や手挟みの彫刻、木鼻や墓股の様式などに室町末期の様式を残している。木鼻の彫刻は貞享年間改築以前のものを、そのまま使用しているようである。

境内には国指定の天然記念物大櫓(樹齢推定1500年)がある。